

# 2007年3月期連結決算内容

(2871)

## 株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 横山一樹

TEL: 03-3248-2235

E-mail: [yokoyamakz@nichirei.co.jp](mailto:yokoyamakz@nichirei.co.jp)

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

# 07／3は堅調なコア事業の業績で大幅増益

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

## 2007年3月期の連結業績

単位:金額=億円(未満切捨て)	06/3	07/3(E)	07/3	07/3対06/3比較	
				増減額	増減率
売上高	4,694	4,605	4,576	-117	-2.5%
営業利益	160	181	181	+21	+13.3%
経常利益	156	171	173	+17	+11.0%
当期純利益	62	111	108	+45	+72.3%

07／3(E)・・・2007年3月期見込・・・は2月6日に発表したもの

### 1. 売上高

- ① 物流ネットワークの新設拠点寄与と海外の好調で低温物流が増収となったものの、販促費支出の見直しを進めた加工食品が減収、また、水産・畜産も前年に届かず全体で3%の減収。

### 2. 営業利益

- ① 加工食品は家庭用調理冷食やアセロラの売上減少と「気くばり御膳」の広告費増加があったものの、販促費比率の低下や物流費の圧縮、固定費低減でカバーし10%、5億円の増益。
- ② 水産は人件費など固定費の減少と不採算商材発生が無くなったことで06／3比13億円の改善。
- ③ 低温物流は運送の採算改善が進んだ物流ネットワークとローコスト運営体制の定着が進んだ地域保管の双方が寄与し24%、14億円の大幅増益。

### 3. 経常利益

- ① 06／3比17億円の増益で過去最高を達成。金融収支は06／3比で3億円改善。

### 4. 当期純利益

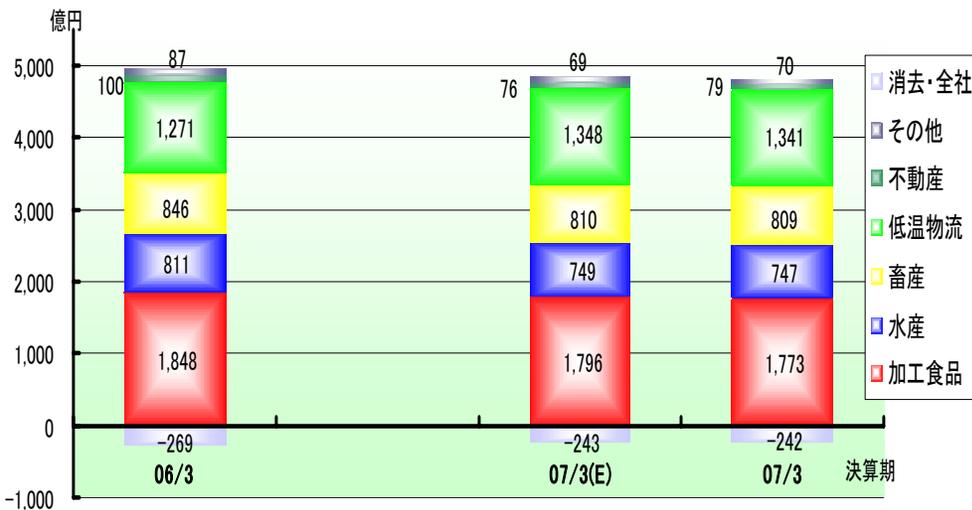
- ① 特別損益は06／3比43億円のプラス、当期純利益は過去最高を達成。

# 加工食品は減収・増益、水産は営業損失を大幅に圧縮

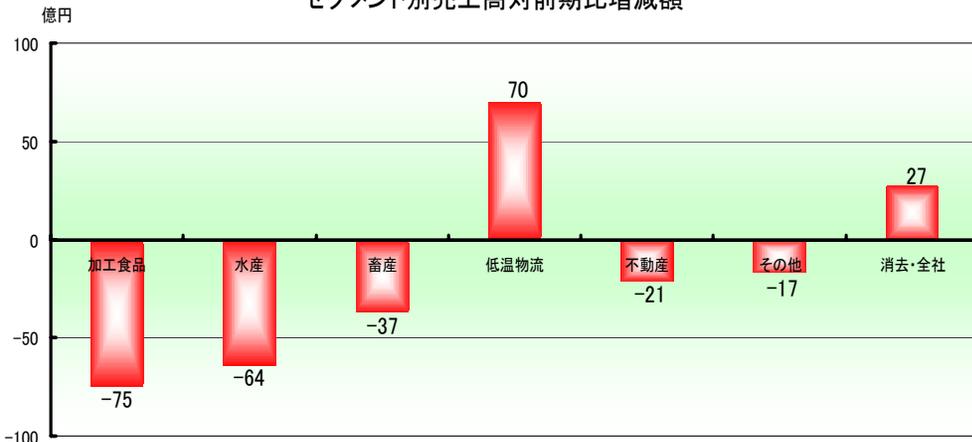
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## セグメント別売上高と営業利益(その1)

セグメント別売上高の推移



セグメント別売上高対前期比増減額



### 1.加工食品

売上は販促費支出を見直した家庭用冷食の大幅減収に加え、業務用冷食の下半期の停滞や農産品・アセロラの伸び悩みが響き06/3比4%の減収。一方、営業利益は販促費支出の見直しによる家庭用冷食の採算改善に加え、物流費圧縮や固定費低減が売上減による付加価値減や広告費増をカバーし10%の増益。

### 2.水産

再生プランによる取扱い商材の見直しのため06/3比で4%の減収。一方、営業利益は固定費の削減と一人あたり生産性の向上に加えて、販売環境が好転し損失在庫処分のなくなった「かに」、商材マイスターモデルの確立が進んだ「魚卵類」の採算改善が寄与し13億円改善した。「えび」は原料高騰から加工品の取扱いを抑えたため減収。

### 3.畜産

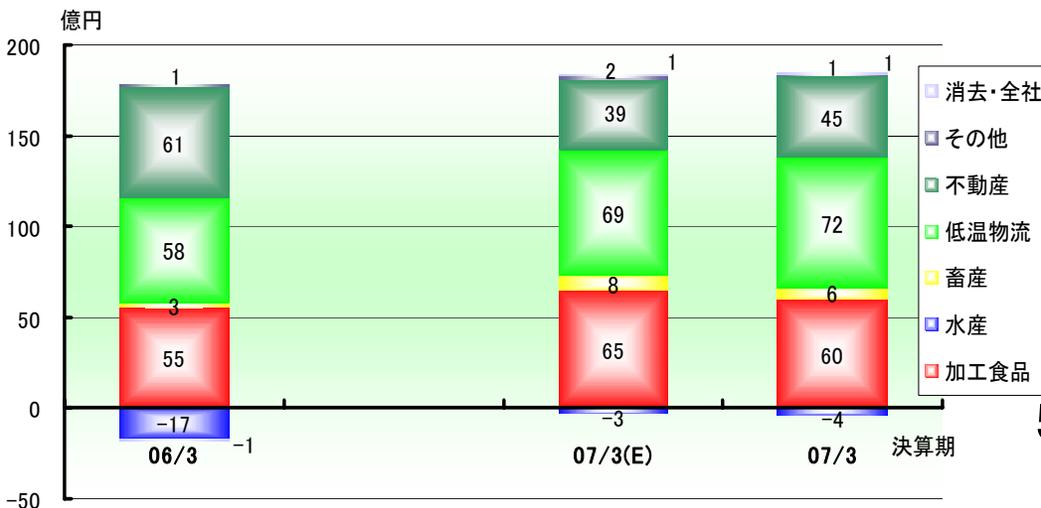
全体では減収・増益。鶏肉はブラジルチキン供給過剰による市況低迷や需要減退が響き減収、豚肉は需要の減退と調達コストのアップで減収・減益、牛肉は減収・増益。

# 低温物流は大幅増収・増益、不動産は大型分譲がなく減益

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## セグメント別売上高と営業利益(その2)

セグメント別営業利益の推移



### 4.低温物流

新設稼動した物流ネットワーク拠点の寄与で06/3比6%の増収、営業利益は物流ネットワークの採算改善、東京港湾地区の在庫率が高水準で維持できたことに加え、地域保管が地域密着営業による集荷とローコスト化の取組みが相まって、24%の大幅増益。

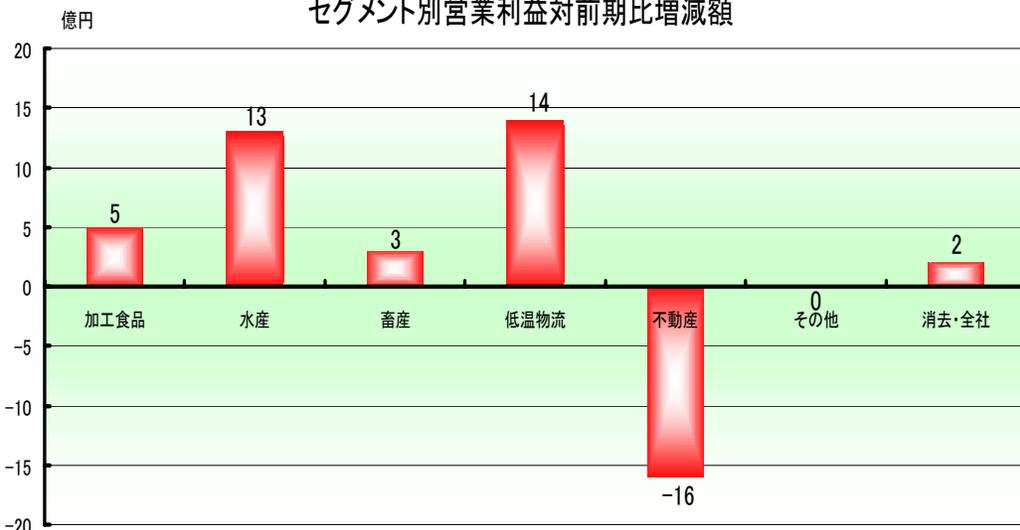
### 5.不動産

茨城県牛久市などの宅地分譲を進めたものの、昨年のような大型の分譲案件がなく、06/3比で21%の減収、17億円の減益。

### 6.その他

前期末で営業を停止した食品卸売会社の売上22億円が無くなり06/3比減収、バイオサイエンスは抗体医薬製品や培地製品が順調に推移し増収・増益。米国のでんぐはBSEの影響が長期化し生産を大幅に縮小した状態が続く。

セグメント別営業利益対前期比増減額



# 家庭用は減収、業務用は増収だが下半期に停滞

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

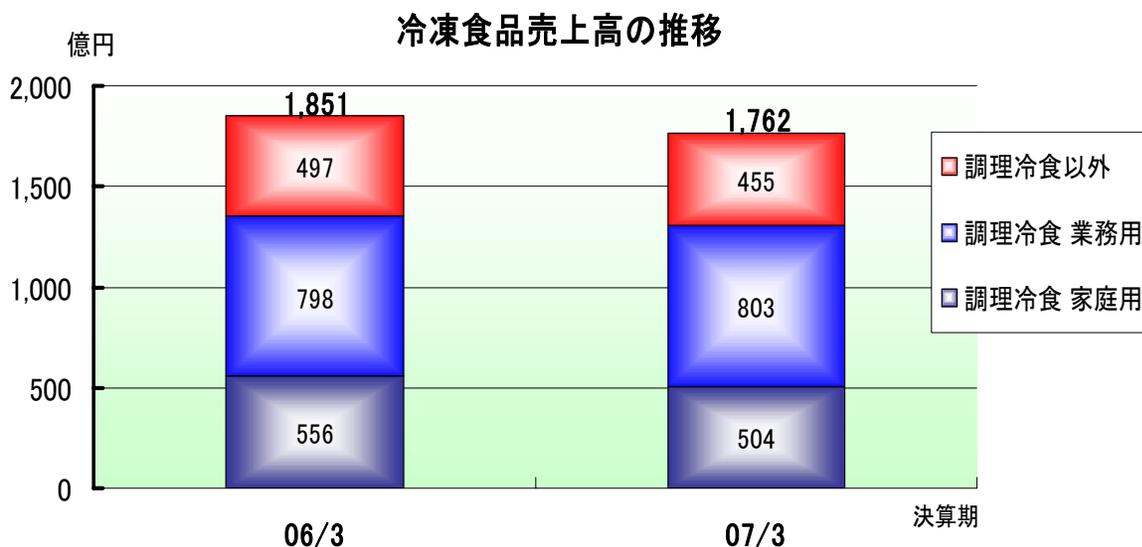
## 冷凍食品売上高

### 1. 冷凍食品全般

06/3比5%の減収。調理冷食は家庭用の減収に加え、好調を持続してきた業務用が下半期に停滞したため、4%の減収。冷凍野菜は国産ほうれん草が伸張したが、ポテトや枝豆が伸び悩んだため4%の減収。

### 2. 調理冷食

- ①家庭用:06/3比10%の減収。販促費支出の見直しを進めたことで卸店の取扱いシェアが低下するとともに当社商品の特売が減少。特に競合メーカーとの競争が厳しい「焼きおにぎり」などの米飯類や「甘えびシューマイ」などの中華惣菜が落ち込んだ。一方、「ミニハンバーグ」などの食肉加工品や「衣がサクサク牛肉コロッケ」などのコロッケ類は前年並みを維持した。
- ②業務用:06/3比1%の増収。「こんがり骨付きチキン」などのチキン加工品は好調に推移したが、値上げの影響や、新年度の新商品発売に向けハンバーグ・コロッケ類の拡販を控えたことなどで下半期に伸び悩んだ。惣菜業態向けの『ほっとするおかず』シリーズは好調に推移した。



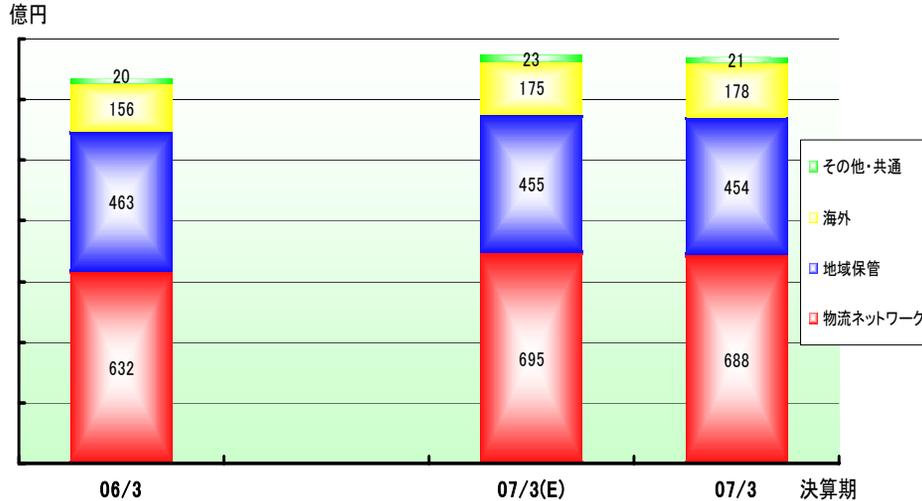
注: 水産品、畜産品の商品分類変更により、「調理冷食以外」に含まれている冷凍食品に該当する水産品、畜産品の対象範囲が変更になった。これにより06/3の数値を遡及修正しており、影響額はプラス41億円である。

# 物流ネットワークの採算改善が進み増収・増益

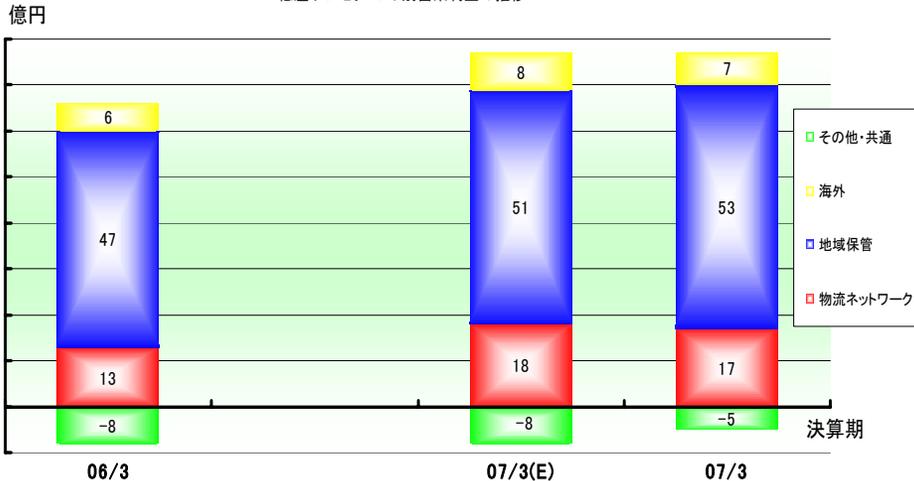
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## 低温物流事業の対前期比増減の要因

低温サブセグメント別売上高の推移



低温サブセグメント別営業利益の推移



### 1. 物流ネットワーク

06/3に1ヶ所、07/3に2ヶ所新設稼働したセンターが増収に寄与、運送も順調に伸張し9%の増収。営業利益は不採算事業所の改善が進んだことと、運送が混載化による積載率アップや定時発着・パレット輸送の推進により効率化が進んだことで4億円の増益。

### 2. 地域保管

地域密着営業による顧客や商材の掘り起こしを進めたが、畜産物の輸入量減少で東京港湾地区をはじめ在庫量が減少、また、06/3から07/3にかけて閉鎖した冷蔵倉庫が6億の減収要因となり、売上は06/3を下回った。営業利益はマンパワーコストのコントロールをはじめローコスト運営を徹底したことで5億円の増益。

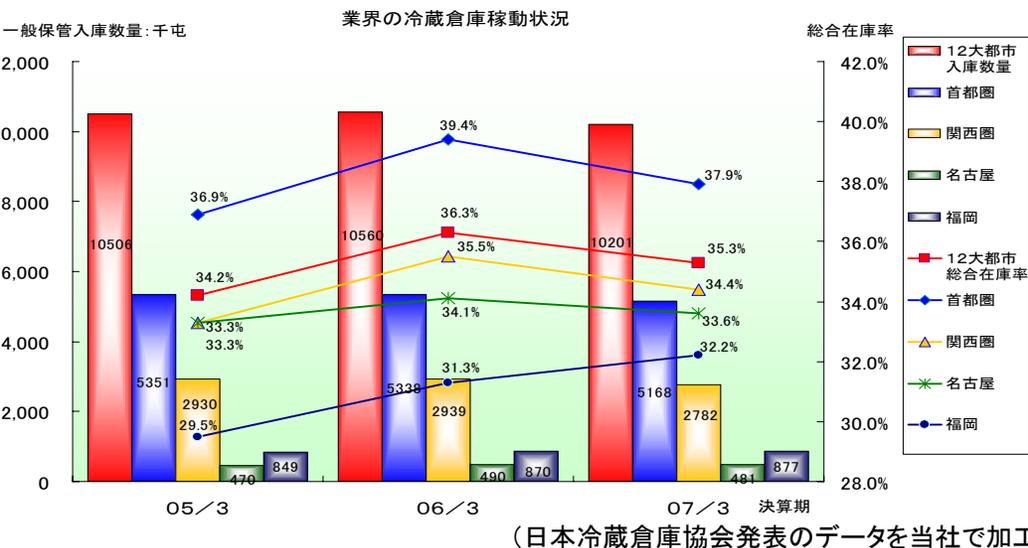
### 3. 海外

全体では増収・増益。欧州ではハリケーンの影響で果汁原料の取扱い減少があったものの、EU圏の景気拡大で運送が順調に売上を拡大。一方、採算性の低下した冷蔵倉庫の閉鎖を実施した。

# 入庫量・総合在庫率ともに前年を下回る

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## 冷蔵倉庫の稼働状況



### 1.業界の状況

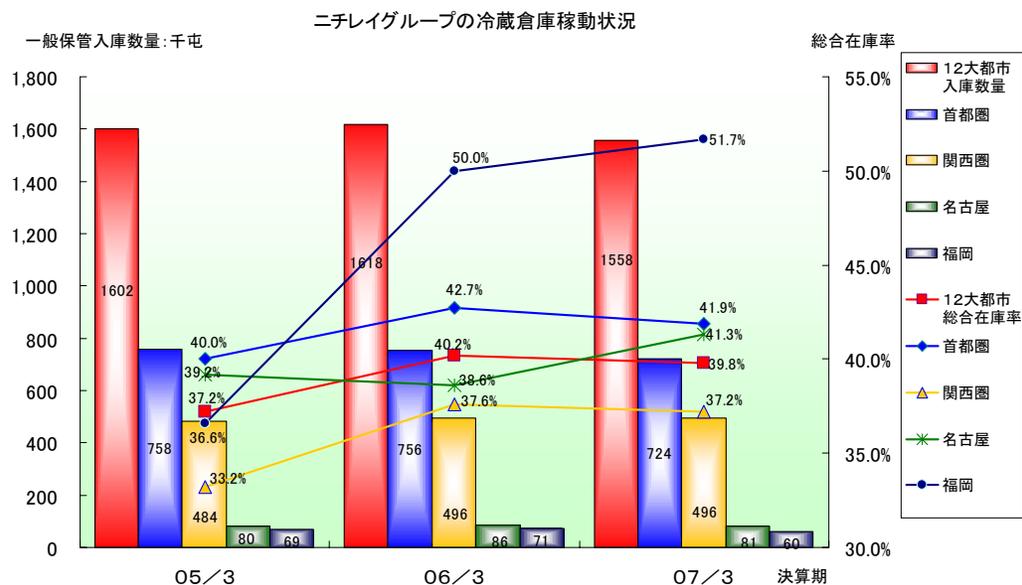
入庫量・総合在庫率ともに福岡地区を除いて06/3を下回った。

### 2.当社の状況

畜産物の搬入量減少が響き、首都圏をはじめ入庫量は全般的に減少したが、総合在庫率は06/3並みを維持した。

### 3.業界の設備能力

業界全体では横這い。



冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア

(2007年4月1日現在)

社名・グループ名	拠点数	能力万ト	06/1比増減	能力シェア	主たる営業地域
ニチレイグループ	88	134	1	12%	全国
横浜冷凍	39	62	2	6%	全国
マルハグループ	43	59	-3	5%	全国
東洋水産グループ	25	41	1	4%	全国
日本水産グループ	25	35	1	3%	全国
五十嵐冷蔵	8	19	0	2%	関東
松岡	6	16	0	1%	関東、関西、中国
ヒューテックノリン	9	13	2	1%	全国
宝船冷蔵	4	11	0	1%	関西
キューソー流通システム	21	11	0	1%	全国
兵食	7	11	0	1%	関西
二葉	5	10	0	1%	関東
中央冷凍	8	10	0	1%	関東
川西倉庫	7	9	0	1%	関東、関西
山手冷蔵	5	9	0	1%	関東、中部
港湾冷蔵	6	8	0	1%	関東、関西、九州
東京豊海冷蔵	3	7	-2	1%	関東
その他	1,329	639	-4	58%	
合計	1,638	1,106	-1	100%	

(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

# 有利子負債の削減が更に進む

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。  ニチレイ

## 07/3期連結バランスシートの変動要因

単位：億円(未満切り捨て)

### 【主な要因】

- ① 売上債権が3月末が銀行休業日だったこともあり23億円増加、一方、06/3に計上した幕張マンション分譲代金の入金などで33億円未収入金が減少。
- ② スラポンニチレイの連結子会社化により有形固定資産が13億円増加。
- ③ 仕入債務は3月末が銀行休業日だったことで31億円の増加、一方、短期借入金の返済や社債の償還が進み有利子負債は132億円の減少。
- ④ 07/3の設備投資の主なもの：  
森工場の加工室増設、コロケライン新設  
関西工場のハンバーグライン増設  
石狩物流センターの新設  
都城物流センターの増設

科目	06/3	07/3	増減	
<b>〔資産の部〕</b>				
流動資産	1,081	1,076	-5	①
固定資産	1,603	1,615	11	②
資産の部合計	2,685	2,691	6	
<b>〔負債・資本の部〕</b>				
流動負債	830	862	32	③
固定負債	821	698	-123	③
負債の部合計	1,652	1,560	-91	
純資産の部	1,032	1,130	98	
(うち自己資本)	1,026	1,110	84	
(有利子負債)	862	729	-132	③
科目	06/3	07/3	増減	
(設備投資額)	65	89	24	④
(減価償却実施額)	107	95	-12	

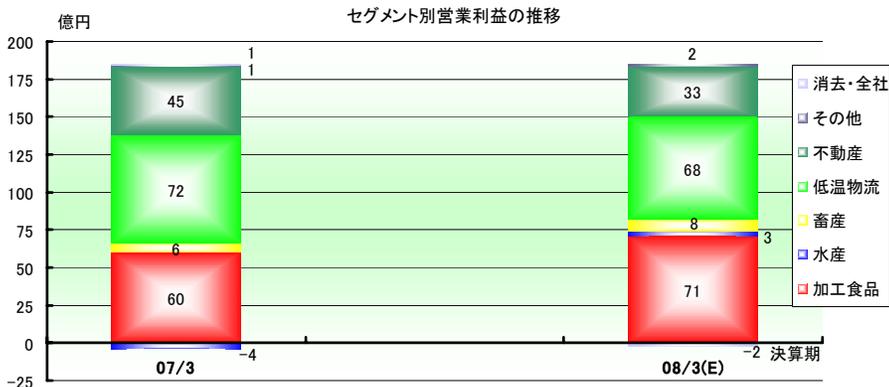
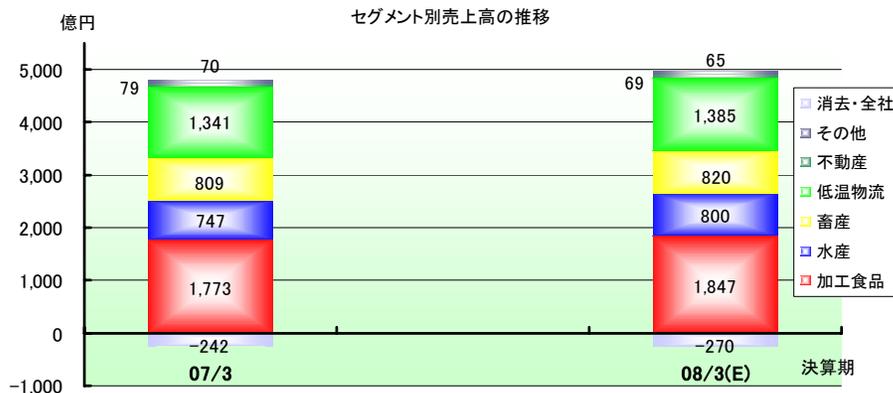
注：06/3の純資産の部の数値は、少数株主持分と資本の部の合計で算出

# 減価償却費増加や不動産の減益を吸収

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## 2008年3月期の連結業績見込み

単位:金額=億円(未満切捨て)	07/3	08/3(E)	08/3(E)対07/3比較	
			増減額	増減率
売上高	4,576	4,716	139	3.0%
営業利益	181	183	1	0.8%
経常利益	173	173	-0	-0.5%
当期純利益	108	102	-6	-5.9%



- 売上は加工食品、水産、畜産、低温物流が増収、営業利益は不動産の減益と減価償却制度変更による償却費の増加5億円を見込むが加工食品の増益と水産の黒字化で全体では横這いとなる。
- 加工食品は、業務用調理冷食を中心に売上高を伸長し、工場の操業度改善により利益拡大を図る。
- 低温物流は、ネットワーク事業が物流の共同化推進で売上伸張、一方、営業利益はネットワーク事業が不採算事業所や運送の採算性改善を更に進めるも、地域保管の收容能力減少や減価償却費増加などで、全体では減益となる。
- 当期純利益は07/3の株式売却益18億円を除けば、減損損失など特別損失が減少し実質増益。

# 07／3の特別損益は前期比プラスに

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す		07／3対06／3比較			08／3E対07／3比較				
		07／3	06／3	増 減	08／3E	07／3	増 減		
<b>【営業外収支】</b> (主要項目)		-7	-3	-4	<b>【営業外収支】</b> (主要項目)		-10	-7	-3
金融収支		-7	-10	+3	金融収支		-10	-7	-3
持分法投資損益	①	+5	+10	-5	持分法投資損益	①	+2	+5	-3
<b>【特別損益】</b> (主要項目)		+18	-25	+43	<b>【特別損益】</b>	⑤	-7	+18	-25
固定資産売却益		+6	+54	-48					
関係会社株式売却益	②	+29	+0	+29					
固定資産売却損		-0	-24	+24					
減損損失	③	-11	-41	+29					
事業所閉鎖損失	④	-4	-14	+10					

① 持分法投資損益の増減の主な内訳

07／3: アールワイフードサービスが持分法適用から外れ▲1億円、スラポンニチレイの連結子会社化により▲1億円

08／3E: スラポンニチレイの連結子会社化により▲2億円

② アールワイフードサービスの株式売却によるもの

③ 07／3は営業を停止した冷蔵倉庫を中心に実施

④ 07／3は冷蔵倉庫4ヶ所を閉鎖

⑤ 08／3に発生が見込まれる主なものは、固定資産売却損・除却損

# データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

## セグメント別売上高・営業利益の実績・見込

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	06/3	07/3		08/3(E)
		(E)	実績	
<b>(売上高)</b>				
加工食品	1,848	1,796	1,773	1,847
水産	811	749	747	800
畜産	846	810	809	820
低温物流	1,271	1,348	1,341	1,385
不動産	100	76	79	69
その他	87	69	70	65
全社または消去	-269	-243	-242	-270
合計	4,694	4,605	4,577	4,716
<b>(営業利益)</b>				
加工食品	55	65	60	71
水産	-17	-3	-4	3
畜産	3	8	6	8
低温物流	58	69	72	68
不動産	61	39	45	33
その他	1	2	1	2
全社または消去	-1	1	1	-2
合計	160	181	181	183

07/3(E)は2月6日に発表したもの

# 当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果  
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。